舊　　務

第20卷第7號　昭和9年7月

役　員　會

第6回　役員會

開催日　昭和9年6月18日

出席者　副會長　米元晋一君

前會長　岡野昇君　中川吉造君　那波光雄君　名井九介君　眞田秀吉君

常議員　池邊稻生君　內海清溫君　河原直文君　神原信一郎君　田邊良忠君　金森誠之君　永田民也君　野口寅之助君

常議員兼主計　佐藤利恭君　同主事　古川淳三君

同兼編輯長　田中豐君

報告並に決議事項

1. 日本工學會工業教育調査委員會本會選出委員山口昇君海外旅行に付その後任として藤井眞透君を委員に依囑せり。
2. 日本工學會より照會に係る第3回工學大會は昭和11年春季に於て開催せられん事を希望し尙4年目毎に開催することゝせば第4回工學大會は恰も紀元2600年に相當せるを以て誠に好都合なる旨を添書回答せり。
3. 土木學會20周年記念祝賀準備委員會に於ける協議事項の中間報告あり，祝賀會開催日を10月26日より3日間とすることゝせり。
4. 土木學會20周年記念祝賀準備委員會委員に次の諸君を依囑せり。

總務委員	衣斐清香君	同	錢高作太郎君		
祝賀委員	池邊稻生君	同	內村三郎君		
見學委員	樺島正義君	同	田村與吉君	同	西大條覺君

5. 土木學會20周年記念會館に關する委員會に於て會館擴張に付き調査をなし麴町區丸ノ內3丁目6番地ユニオン館1階室67坪7合を借入れこれに談話室會議室その他の諸設備を施すこと等を決定報告せり。
6. 7月開催見學會は横濱港並に東京灣埋立地を見學することゝせり。
7. 土木學會20周年記念會館に關する件

   委員會に於ける調査決定報告に基き愼重審議をなし委員會原案の通り決議し借室契約締結並に諸設備を施すことゝす。
8. 土木技術界の勳勞者を貴族院勅選議員に詮衡奏請方建議の件

   本會々長名を以て建議書を作成し總理大臣並に各國務大臣へ建議することゝす。
9. 入退會の件

   井上眞治君外29名を會員に，有島茂一君外70名を准員に，相澤進君外35名を學生員として入會を承認し准員青山吟三郎君外6名を會員に轉格承認せり。

編輯委員會

第 6 回 編輯委員會

開催日　昭和 9 年 6 月 4 日

出席者　編輯長　田中　豐君

委　員　青木楠男君　龜田　素君　中原壽一郎君　永田　年君
野口　誠君　福田武雄君　星野茂樹君　堀越一三君

協議事項

1. 第 20 卷第 5 號所載下記論說報告に對する討議依頼先決定之件

土讃北線吉野川橋梁のケーブル・エレクションに就て　會員 工學士 淺間逸雄 稻石洋八郎著

機關車動輪の釣合錘が軌道に及ぼす影響に就て　會員 工學士 井上隆根著

コンクリート標準圓壔供試體の抗壓强度及び蒸發減と養生室より取出後の經過時間との關係　會員 吉田彌七著

2. 第 20 卷第 5 號所載論說報告,討議,彙報及び參考資料に對する謝禮を決定す。

3. 第 20 卷第 4,5 號工事寫眞に對する謝禮に關する件

4. 第 20 卷第 6 號へ下記を追加す（事後承認）

論說報告

濕潤地に於ける粘土質路盤の防護に就て　會員 工學士 堀越一三

討議

水戸國道改良工事報告　會員 杉山鎧介

同上　著者 會員 工學士 鈴木清一

上水道に於ける二重濾過の實驗的考察　會員 工學博士 西田精

同上　著者 會員 島崎孝彦

參考資料

壓力管の水衝壓理論とサージタンクの設計　（本間仁）

5. 第 20 卷第 7 號登載論文を下記の通り決定す。

論說報告

係數曲線に據る調整池諸問題の解法　會員 工學士 松野辰治

小型潛函工事報告　會員 鈴木美英

不等速定流に關する 2,3 の問題　准員 工學士 本間仁

北滿に於ける架橋の一例　准員 眞鍋簡好

討議

天龍川上流（諏訪湖を含む）改修工事概要　會員 工學士 都々木春美

同上　著者 會員 工學士 岩崎雄治

彙報

兩羽橋井筒基礎工事概要　西條宇助

付知川改良工事概要　會員 工學士 櫻井哲三

當古橋新設工事概要　〃 〃 川越篤

特許抄錄

鑿井滯水層洗滌裝置　決潟板操縱裝置　セメント製品の製造方法
基礎杭埋設法　鐵線石籠類による沈床を用ひたる工作物の破壞防止裝置

參考資料

減衰性を持つたピアノ線に對する彈性的槌によるヘルツ型衝擊に就て　(最上武雄)
偏心鉄接合設計の簡易化　(岡崎三吉)
揚水式發電所　(〃)
佛國 Lorient 漁港に於ける放射型船座を有する船架　(五十嵐醇三)
コンクリート斜角剛性框構の近似的設計法　(岡崎三吉)
ワシントン新汚水處分場計畫　(板倉誠)

6. 第 20 卷第 8 號登載論文を下記の通り決定す。

論說報告

水源としての地下水の利用に關する實地研究　會員　吉田彌七
地下鐵道建設方法に就て　會員　工學博士　小野諒兄
筑後川橋梁井筒工事報告　會員　工學士　釘宮磐
隧道工事に對してセメント注入の應用　會員　工學士　岡野精之助

7. 抄譯に關する件

抄譯擔當者として從來の諸君の外に下記諸君に依賴すること

今井四郎君　奥田秋夫君　綾龜一君　岡本東一郎君
南保賀君　內山實君　高橋憲雄君　傍島湊君
最上武雄君　山岡包郎君　五十嵐醇三君　高島健二君
佐治豐君　町田保君

8. その他

(1) 會誌寄稿に關する注意事項の (8) を (9) に改め (8) として下記を追加すること。

論說報告，彙報及び參考資料等の本誌に揭載の分には謝禮を呈す。

土木工學論文集錄編纂主査會及び記念講演會委員會

第 2 回　協議會

開催日　昭和 9 年 6 月 1 日

出席者　委員長　中川吉造君　委員長　那波光雄君
主査　宮本武之輔君　鈴木雅次君　藤井眞透君　田中豐君
三浦七郎君　河口協介君　萩原俊一君　榧木寛之君
關信雄君
委員　本間仁君　伊藤剛君
主事　古川淳三君

協議事項

1. 論文集錄原稿の整理

5 月末迄に著者より直接學會宛屆けられたる原稿は，500 餘篇あり。これ等は相當篇數に達するを待ち，各部門別になし，夫々主査の許へ送り整理をなすこと。

2. 寄稿の督促

嘗て學會誌に論説又は報告を寄稿されたる會員にして，未だ原稿の送附なき方に對して先般寄稿依頼の督促狀を出したるを以て，このまゝにて原稿の送付を待つこと。

3. 主査より原稿を學會へ渡さるゝ期日

各部門別に主査の許にて調製，整理されたる原稿は，印刷準備の都合上成るべく 6 月 15 日頃より遅くも 7 月 10 日までには學會へ渡さるゝ樣致し度きこと。

4. 原稿蒐集に要する費用

各主査の許にて原稿蒐集のために要する調査通信等の費用は，實費を學會に於て負擔すること。

5. 下刷り校正の件

校正は各部門主査に於てなし，總括を土木學會にてなすこと。

6. 山口主査の代理設置

部門 (5) 及び (11 を擔當せらるゝ山口主査は先般海外出張せられたるを以て，この代理として (5) 水理を宮本主査に，(11) 應用力學を田中主査に依囑すること。

7. 記念講演會の講演及び演題

下記の如く決定又は内定せり。内定のものは早速講演者の承諾を求め，次回協議會までには確定し，講演内容のアブストクラト作製の準備をなすこと。

部門		講演者	演題
土木一般	會	原田 碧君	航空港に就て
河川	會工	菊尾勢龍君	河川制水工に就て
	會工	安藝峻一君	河川流量測定に就て
水電	未	定	未定
上下水	會	岩崎富久君	東京市淀橋淨水場に於ける濾過速度の試驗に就て
	會工	池田篤三郎君	剩餘汚泥の處分に就て
水理	准工	伊藤剛君	利根川の水理
	准工	本間仁君	不等速定流に關する 2,3 の問題に就て
港灣	會工	桑原利英君	羅津の築港に就て
	同工	島野貞三君	未定
道路	會工	金子柾君	鋪裝に及ぼす路盤の凍結作用の影響
	會工	江守保平君	未定
都市計畫	會工	町田保君	輓近に於ける都市計畫の趨勢に就て
	會工	磯谷道一君	三陸地方に於ける災害復興事業に就て
材料	會工	近藤泰夫君	未定
	會工	島田八郎君	アスファルト・エマルジョンに就て
施工	會工博	吉田德次郎君	未定
	會工	正子重三君	壓搾空氣潛函工事に就て
應力	會工	重松愿君	未定
	准工	野坂孝忠君	地辷り試驗の一現象に就て
橋梁	會工	稻葉權兵衞君	橋梁架設法に就て
	准工	富樫凱一君	晩翠橋の架設に就て
鐵道	會工	平山復二郎君	丹那隧道工事を顧て
	會工	橋口行彦君	本邦に於ける鋼索鐵道及架空鋼索に就て
	會工	山崎匡輔君	コンクリート道床に就て

鐵道	會工	井上隆根君	國有鐵道の速度昂上と保線との關係に就て
	會工	高橋末治郎君	大阪驛高架線切換工事に就て
測量	會工	野口正義君	檢測水準測量の結果に現はれたる2,3の問題
	同上	末森猛雄君	未定
堰堤	會工	小野基樹君	山口貯水池土堰堤に就て
	會工	藤井雄之助君	庄川小牧堰堤工事に就て

20 周年記念祝賀會準備委員會

主任委員會

開催日　昭和9年6月7日

出席者　委員長　眞田秀吉君

副委員長(總務主任)　井上秀二君

同　(祝賀主任)　茂庭忠次郎君

同　(見學主任)　小川織三君

會長　久保田敬一君

副會長　米元晋一君

主事　古川淳三君

主計　佐藤利恭君　書記長　柴原龍見君

協議事項

1. 各部委員依囑の件

次の通り決定す

總務委員　衣斐清香君　錢高作太郎君

祝賀委員　池邊稻生君　內村三郎君

見學委員　樺島正義君　西大條覺君　田村典吉君

2. 祝賀會開催日程の件

昭和9年9月28日金曜日より3日間とし

第1日　祝賀會

第2日　午前講演會　午後見學會

第3日　午前講演會　午後見學會とすることゝす。

3. 第1回委員會を6月20日とすることゝしその他見學場所及び祝賀當日の事項等に就き協議せり。

第1回 委員會

開催日　昭和9年6月20日

出席者　委員長　眞田秀吉君

副委員長(總務主任)　井上秀二君

〃　(祝賀主任)　茂庭忠次郎君

〃　(見學主任)　小川織三君

委員　衣斐清香君　池邊稻生君　內村三郎君　樺島正義君

田村典吉君　西大條覺君

副會長　米元晋一君　草間偉君

主 事 古川淳三君 書記長 柴原龍兒君

協議事項

1. 祝賀會開催日程を 10 月 26 日金曜より 3 日間とすることゝし各部の分擔事項を協議決定して準備工作を進むることゝせり。
2. 次回の委員會を 7 月 10 日頃としその間各部委員會を開き協議することゝす。

總務委員會

開催日 昭和 9 年 6 月 30 日

出席者 副委員長(總務主任) 井上秀二君
委員 衣斐清香君 錢高作太郎君
書記長 柴原龍兒君

協議事項

1. 東京府並に隣接縣在住會員數の調査並に祝賀會に招待すべき本會關係者及び學, 協會代表其他に就き協議し次回委員會に提案することゝす。

20 周年記念會館に關する委員會

第 2 回

開催日 昭和 9 年 6 月 4 日

出席者 委員長 井上秀二君
委員 近新三郎君 衣斐清香君 佐藤利恭君 森井健介君
錢高作太郎君
副會長 草間偉君
主事 古川淳三君 書記長 柴原龍兒君

協議事項

會館擴張に就き海上ビルその他十數箇所に渉り借室の調査交渉の經過を調書として柴原書記長より報告し愼重審議の結果麴町區丸ノ内 3 丁目同所在ユニオン館 1 階 67 坪 7 合を借入ることを決議しこれを役員會に報告することゝせり。

維新以前日本土木史編纂委員會

第 19 回維新以前日本土木史編纂委員會

開催日 昭和 9 年 5 月 22 日

出席者 副委員長 眞田秀吉君 伴宜君
委員 江澤甚一君 平井喜久松君 前川貫一君 牧彦七君
茂庭忠次郎君 安藝杏一君 小川織三君 坂井申生君
眞島健三郎君 赤木正雄君 藤井眞透君
樫木寛之君代五十嵐醇三君
幹事 佐藤利恭君

決議事項

1. 農林省耕地課長片岡謙君を委員に追加依囑のこと。

配布せし印刷物

昭和 6 年 3 月刊行歷史學關係諸雜誌國史論文要目拔
佐藤信淵家傳
前田侯爵邸內尊經文庫目錄
土木史編纂委員會決議事項

第20回視察旅行會

視察場所　信濃川發電所工事並に新潟港

日　程　自 6 月 9 日（土曜日）午後 11 時 30 分上野驛發
至 6 月 11 日（月曜日）午前 6 時 35 分上野着

行　程　第 1 日　6 月 9 日（土曜日）午後 10 時 30 分までに上野驛 2 等待合室に集合
午後 11 時 30 分上野驛出發
第 2 日　6 月 10 日（日曜日）午前 6 時 50 分越後川口驛着十日町線飯山線に乘替へ田澤驛を經て午前 9 時信電軌道小原詰所着，車內朝食（信電事務所饗應）午前 9 時 30 分より約 1 時間，取入口（堰堤，沈砂池）現場を視察し宮中に到る。
午前 10 時 30 分信電輕便にて宮中を發し午前 11 時 10 分淺河原着，調整池（隧道，壓力隧道，土堰堤）現場を視察し小泉に到る。
午前 11 時 40 分小泉を發し正午十日町着，信電工事請負業者聯合主催の歡迎會に臨み，午後 1 時 4 分十日町驛發，越後川口驛乘替へ午後 4 時 10 分新潟驛着，萬代橋際より汽船にて信濃川沿岸並に築港を視察し山下棧橋に上陸，徒步（約 10 分）にて最近新潟名所の一つとなりたる東洋一の稱ある新潟農園を視察休憩，新潟臨港株式會社より茶菓の饗應を受け後ち自動車にて萬代橋を經て新潟縣物產陳列所，新潟縣廳を見學し新潟縣，市，商工會議所主催の歡迎宴會場に到着，休憩。
午後 7 時より宴會に移り新潟情緒を滿喫して午後 9 時 40 分新潟驛發。
第 3 日　6 月 11 日（月曜日）午前 6 時 35 分上野驛到着解散

講　演　會

第 64 回講演會

日　時　昭和 9 年 6 月 26 日午後 5 時より

會　場　帝國鐵道協會

來聽者　102 名

演題並に講演者

（イ）近代建築樣式に就て　東京帝國大學教授　工學博士　岸田日出刀君

（ロ） テレビジョンに就て　　早稲田大學教授　工學博士　山本忠興君

閉會後有志晩餐會を同所に於て開く出席者 38 名

日本工學會記事

○昭和 9 年 6 月 29 日午後 4 時 30 分より日本工業倶樂部に於て故古市男爵記念事業計畫第 1 回準備委員會を開き次の事項に就き協議せり。

1. 發起人選定に關する件
2. 記念事業に關する件
3. 事業資金に關する件

土木學會關西支部記事

○昭和 9 年 6 月 27 日午後 5 時 30 分より大阪市中央電氣倶樂部に於て第 4 回役員會を開催し支部長松島寛三郎君外 12 名出席下記事項を協議せり。

協議事項

報　告

1. 春季見學會費精算報告せり
2. 記念事業委員會の經過を柴田，鈴木兩委員より報告せり

決　議

1. 本年土木工學研究會の件

（イ） 講師及び演題次の通り決定す

最近橋梁設計の傾向に就て　　高橋逸夫君

最近の水道設備に就て　　島崎孝彦君

耐震構造に就て　　工學博士　物部長穂君

（ロ） 開催期日は 10 月のこと

2. 通俗講演會の件

（イ） 講師及び演題次の通り決定す

都市計畫と綠樹地帶又は源兵衛河底隧道工事

大阪市土木部長　　福留並喜君

土を動かす機械

內務省大阪土木出張所技師　柴田辰之進君

（ロ） 活動寫眞は梅田切換工事等鐵道省及び內務省方面より取集のこと

（ハ） 開催期日は 9 月中旬のこと

3. 秋季見學會の件

（イ） 見學場所は丹後の宮津方面

（ロ） 開催期日は 9 月 29, 30 日のこと

4. 特別會員入會の件

土木請負業佐伯與之吉氏特別會員として入會のことゝす

5. 中央電氣倶樂部に當支部會員出入の件

土木學會關西支部と中央電氣倶樂部間に於て出入に關し協定をなせり

6. 座談會の件

次回の座談會には大阪動物園長を招聘する事とす

その他の記事

○內務省にて地方土木主任官會議を招集せられたるを機會に本會地方委員を昭和 9 年 6 月 16 日正午より丸ノ內三信ビル 8 階東洋軒に招待し晝餐會を開催せり，出席者 80 名にして久保田會長の感謝の辭と地方委員を代表して辰馬東京土木出張所長の答詞あり盛會裡に午後 1 時 30 分散會せり。

○昭和 9 年 6 月 20 日，昭和 9 年 4 月 16 日までの會員追加名簿を全會員に配布せり。

○昭和 9 年 6 月 26 日の講演會開催に就き東京府及び隣縣一般會員に對し葉書にて再度通知をなせり。

○昭和 9 年 6 月 24 日土木學會誌第 20 卷第 6 號發行成規の手續をを了し 6 月 25 日これを全會員に配布せり。

○昭和 9 年 6 月 25 日付にて土木技術界の勳勞者を貴族院勅選議員に詮衡奏請方に就き內閣總理大臣並に各國務大臣閣下に下記の如く建議し尙貴族院正副議長及び土木關係の樞密顧問官並に貴族院議員に對し建議書寫しを添へ宜敷御考慮賜はり度旨文書を以つて依賴せり。

建　　議

政府は土木技術界の勳勞者中より貴族院勅選議員を詮衡奏請せられむことを望む

右本會役員會の議を經て建議候也

理　　由

貴族院令第一條に依る勅選議員は歷代の政府に於て政界，學界，實業界等の功勞者中より詮衡奏請せらると雖も從來技術界の功勞者又は權威者にして其の選に預るもの極めて稀なるは本會の甚だ遺憾とする所なり

惟ふに貴族院令第一條の趣旨は實に國家に對する朝野の功勞者を優遇せんとするに止まらずして議會に各方面の權威者を網羅して其の實質を充たし其の權威を高むる點に存するを信じて疑はず 特に我國歲計の中樞をなす土木事業費豫算の審議に方りては 土木事業の本質內容に通曉せる專門家議員の檢討に俟つに非ずんば 到底協贊の完璧を期すること能はざるや論なし

仍て政府は一は以て土木技術界の功勞者を優遇して其の功績に酬ひ他は以て議會の內容を充實して 其の機能を完全ならしめんが爲め土木技術界の勳勞者中より 貴族院勅選議員を詮衡奏請せられんこと 本會の切望して已まざる所なり

昭和 9 年 6 月 26 日

社團法人土木學會々長

工學博士　久 保 田 敬 一

○第 20 卷第 6 號土木學會誌緊急會告を以て昭和 9 年 7 月 7 日横濱港並に東京灣理立地見學會開催の通知をなせり。

○昭和 9 年 6 月 29 日横濱港並に東京灣理立地見學會開催に就き東京府及び隣接縣一般會員に對し葉書にて再度の通知をなせり。

○昭和 9 年 6 月 18 日までに於て下記諸君を入會又は轉格の手續を了し名簿に登錄せり。

入會々員

井上眞治君　伊藤清君　伊藤信吉君　伊藤横次郎君
石黑龜吉君　稻石洋八郎君　岩橋茂藏君　有働逸男君
上野節夫君　遠藤清成君　加藤一郎君　國澤舜二君
菅野理助君　小林肇君　紺谷剛一君　白石義雄君
祐村巖君　鈴木美英君　園田光雄君　筒井丹君
奈須川丈夫君　中島忠次君　野村盛君　堀田博君
前田秀之君　松下幹雄君　渡邊市太郎君　堀川力君
雄川謙三君　中村彌二君

入會准員

青島茂一君　淺野薫君　飯田三郎君　伊黑正次君
池本只一君　石川政雄君　石崎勇君　今泉保次君
小川新市君　小野豐君　大岡順一君　大島練逵郎君
太田尾廣治君　岡崎武夫君　金岩明君　樺島武久君
北村市太郎君　北村正之君　木村秀敏君　小泉一郎君
小林美人君　古賀登君　小松政夫君　小堺進君
米谷榮二君　齋藤養吉君　坂脩吉君　坂田靜雄君
白鳥謹一君　清水治良君　柴橋種造君　鹽谷勝男君
鈴木喜雄君　田邊禮藏君　田元政善君　田村信義君
高井義三郎君　高橋憲治君　竹岡政一君　武田良平君
竹中德君　谷口正勝君　土屋辰平君　都志見克己君
津山治夫君　寺田春二君　中山孝平君　長友一二君
長澤道行君　永峰彌太郎君　新田健造君　濁川武雄君
沼田悟一君　服部彰雄君　早川正道君　平松健次君
藤代榮太郎君　本間會治君　前野一一君　宮崎雪衛君
道見太左衞門君　用澤傳六君　安河內太七郎君　柳內泰夫君
山崎長作君　山下博之君　山谷一夫君　箭內守美君
吉開明夫君　吉田四夫君　吉江定雄君　渡邊武男君

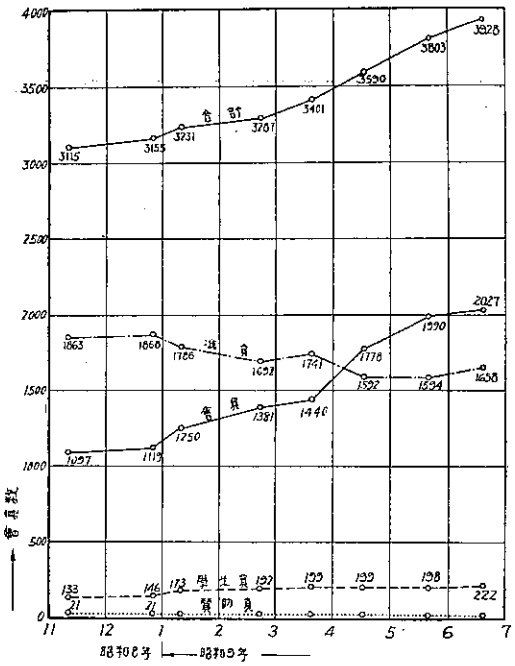
入會學生員

相澤進君　青山毅君　池田淳一君　石川勝美君
伊藤博秀君　大島幸治君　大畑定夫君　岡本孝行君
加藤清君　神田公君　神田一雄君　小久保參次君
佐藤武君　坂上種正君　清水忠男君　神宮司務君
菅明君　鈴江政直君　鈴木鬼芳君　田坂義武君
高尾辰雄君　竹內千代司君　館政雄君　谷朝男君
張如淮君　塚本新之助君　戶田晃君　野口三郎君
萩尾勇三君　東靜夫君　平澤謙二郎君　廣田賢治君
藤田久君　卷內一夫君　松岡道男君　松田忍君
源川大三郎君　八木武夫君　矢口武君　和田豐君
渡邊仁一郎君

轉 格 會 員

青山吟三郎君　栗原斧衛君　後藤量介君　佐竹虎之助君
園部三郎君　村瀬俊雄君　吉田光太郎君

會員移動一覽表圖



○昭和 9 年 6 月中寄贈又は交換を受けたる雜誌その他下記の如し。

セメント・コンクリート道 2 册　No. 23	日本ポルトランド・セメント同業會
滿洲電氣協會々報　第 24 號	滿洲電氣協會
G. S. News　第 8 卷第 5 號	日本電池株式會社
學校建築參考圖集	建築學會
三陸津浪に因る被害町村の復興計畫報告書	內務大臣官房都市計畫課
衞生工業協會誌　第 8 卷第 5 號	衞生工業協會
港　灣　第 12 卷第 6 號	港灣協會
土木建築雜誌第 13 卷第 6 號	シビル社
都市問題　第 18 卷第 6 號	東京市政調査會
工學部紀要　第 3 册第 6 號	北海道帝國大學
學　報　第 3 卷第 5 號	東京工業大學
工學院同窓會誌　第 36 卷第 6 號	工學院同窓會
三菱電機　第 10 卷第 4 號	三菱電機株式會社
工事畫報　第 10 卷第 6 號	工事畫報社
機械學會誌　第 37 卷第 206 號	機械學會
電氣學會雜誌　第 54 卷第 6 册	電氣學會
玉　工　第 7 卷第 3 號	攻玉社玉工同窓會

工　人　6 月號	日本工人倶樂部
我が國の土木建築事業	日本土木建築請負業者聯合會
工　政　170 號	工政會
造船協會雜纂　146 號	造船協會
セメント界彙報　315 號 2 册	日本ポルトランド・セメント同業會
工業現勢　第 3 卷第 6 號	東京工業大學
鐵と鋼　第 20 年第 5 號	日本鐵鋼協會
工　學　No. 238	東京工學社
鑄　物　第 6 卷第 6 號	日本鑄物協會
工業化學雜誌　第 37 編第 6 册	工業化學會
同上歐文綴　No. 6	〃
地震研究所彙報　第 12 卷第 2 册	東京帝國大學地震研究所
地震觀測報告　昭和 8 年第 4 册	〃
都市計畫東京地方委員會常務委員會議事速記錄第 4 號	都市計畫東京地方委員會
都市計畫東京地方委員會議事速記錄　第 5 號	〃
Engineer　5 月號	都市工學社
稻工會雜誌　第 15 號	早稻田高等工學校稻工會
日本建築士　第 14 卷第 5 號	日本建築士會
都市計畫に於ける最近の進歩	コロナ社
業務研究資料　第 22 卷第 12, 13, 14, 15, 16, 17 號	鐵道大臣官房研究所
會務彙報　31 號	日本土木建築請負業者聯合會
建築業協會々報　第 17 卷	建築業協會
造園雜誌　第 1 卷第 1 號	日本造園學會
帝國學士院紀事　第 10 卷第 5 號	帝國學士院
水　道　第 9 卷第 6 號	横濱市水道局堀江勝己氏
日立評論　第 17 卷第 6 號	日立評論社
資　源　第 4 卷第 1, 2 號	內閣資源局
建築雜誌　第 41 輯第 586 號	建築學會
鐵と鋼　第 20 年第 6 號	日本鐵鋼協會
Excavating 5 月號	三井物産機械部
會　報　第 35 卷第 6 號	帝國鐵道協會
高溫度に於けるニッケル合金鑄鐵	日本ニッケル情報局
日本鑛業會誌　第 50 卷第 590 號	日本鑛業會
セメント工業　7 月號	セメント工業社
鐵道技術　7 月號	鐵道技術社
國立公園　7 月號	國立公園協會
三菱電機　第 10 卷第 5 號	三菱電機株式會社
C. B.　No. 7	プラクティカル・エンジニヤリング發行所
衛生工業協會誌　第 8 卷第 6 號	衛生工業協會
應用彈性學　第 2 卷	コロナ社

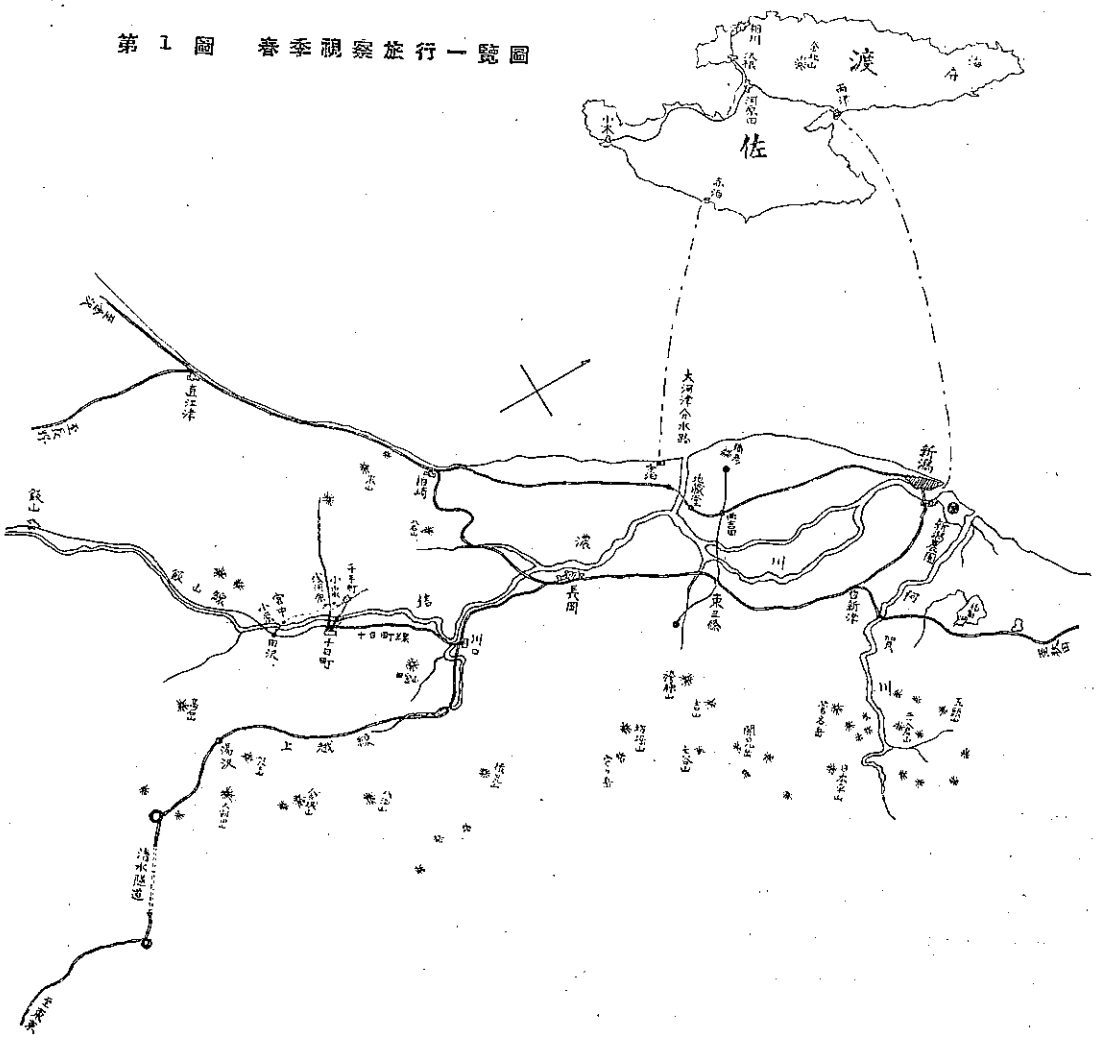
會　　報

第20卷第7號　昭和9年7月

第 20回視察旅行記事

本學會が更生的氣分を以て積極的に活動を初めてより早や一年は經過した，その間色々の事業施設は整へられ，見學視察方面もその回數を増し，殊に從來年中行事の一として最も期待せられてゐた春の大エキスカーションは本年度に於ては初夏綠陰の好季 6 月 9 日～11 日を擇んで鐵道省信濃川水力發電工事並に新裝なれる新潟港の視察，尙希望の有志は情味豐かな佐渡の氣分を滿喫出來ると言ふ理想的プログラムに依つて遂行せられることになつた。

第 1 圖　春季視察旅行一覽圖



何しろスピード的の事中 2 泊の旅行で相當の强行軍であるから最初は參加會員が少なくないかと懸念したのであつたが申込は意外に多數で忽ち 100 名を突破したことは近來にない快事である。

旅行に際して懸念されるものは第一に天候であるが幸ひにも好天氣に惠まれこのエキスカーションを意義あらしめたことは祝福に堪へない次第である。この度の視察旅行の第 1 歩を踏み出すべき上野驛には草間副會長を初め 80 餘名の會員諸氏が續々參集，午後 11 時 20 分列車がホームを滑り出すや會員一同は何れも旅の氣輕なゆるやかな氣持になつて談笑爆笑に賑ふこと暫しの後明日の山河海濱の美しき樣を畫きつゝまどらかな夢を結んだ。

上越國境を貫く清水隧道も難なく過ぎ裏日本の黎明の心地良さを味ひつゝ列車は 6 時 47 分越後川口驛に着いた。我々はこゝで信濃川電氣事務所の方々の出迎を受け直に十日町行列車に移り，同所發電工事に關する圖面や寫眞の寄贈を受け遠く白衣を纏ふ日本アルプスの峻峰を仰ぎ大信濃川の清流から吹き來る涼風に心氣の爽快を覺えつゝ朝食をとる。7 時 55 分十日町着，此處で米元副會長並に神原，神谷，勝田，足立の諸士參加され列車は飯山線にその儘連結 8 時 25 分越後田澤驛着，之より發電工事用輕便鐵道に乘換へ約 1 km にして最初の視察現場大溢流堰堤築造箇所間近き小原詰所に到着同所に於ては吾等一行の爲に萬般の準備を整へられ所長長屋脩氏は堰堤視察のプロローグとして同工事が他の發電工事とその趣を異にせる點に就て述べられた。

この內容に就ては本號講演欄を參照せられたい。

講演終了後時間の都合上馳け足で現場を見ることになつた。取水堰堤の現場に至ればその規模の壯大なるに一同驚きの眼を睜る事暫時，高さ 15 m，總長 330 m に及ぶ大堰堤は未だ工事半であるが既に無溢流部と魚梯及び溢流部 5 門が出來上つてゐる。7 月上旬から水路を切換へて殘り 6 門の工事を行ふのであるがこれは可成りの難工事であらう。又竣工の曉滿水せる狀況は一大偉觀であらうと思はれる。こゝで堰堤をバックとして一行の記念撮影が行はれた。河向ふの大沈砂池に向ふ爲に渡船に乘つた。この渡船は索條式とも云ふべき水流を巧に利用せる點は面白し。小高き丘に上れば撫順の露天堀の如く廣大なる面積に亘つて大掘鑿を行つてゐる。これは長さ 353 m，幅 121 m，總掘鑿土量實に 54 萬 m^3 である。これより延長約 7 km の普通隧道を築設し淺河原の調整池へ送水されるのである。吾々一行はこゝで工事用輕便鐵道により，宮中發 10 時 42 分淺河原に至る，運搬用ケーブル・カーは山から谷へ，コンクリート・ミキサーの音も勇ましく，隧道工事の大規模なる事を直感させらる，徒歩 2 分にして隧道入口に至る。調整池現場は未だ工事中なるもその廣大なる廣場に工事に關する諸般の設備は完備されてゐる。我々の爲に特に設けられた竹管水道より出づる清冽なる雪解水で洗面してさつぱりした氣分となりこゝで茶菓の饗應に預かり大調整池の模型等につき懇切なる說明を受く。

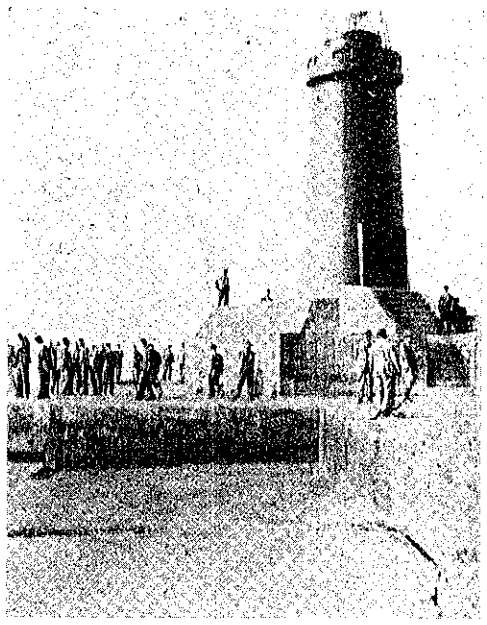
これより 11 時 5 分小泉に至り再び車上の人となり，壓力隧道計畫線に沿ひて河面を木の間がくれに眺めつゝ，千手發電所位置を右に見て信濃川の清流を跨ぎ 11 時 40 分十日町着，直にバスで料亭の歡迎會に臨んだ。長屋所長は吾等一行の工事視察に對する歡迎の辭を述べられ，これに對して米元副會長御禮の御挨拶ありし後同地方御自慢の珍味の振舞にあづかり又思ひもかけぬ美妓のあでやかな舞姿に暑さを忘れた。この歡迎會は信電工事に關係ある 7 請負者から吾々の爲に催されたものである。

1 時 40 分長屋所長以下諸氏の見送りを受け十日町驛發，新潟に向ふ。吾等のスケジュールは信濃川の流と共に極めて自然的に進んで行くのは愉快である，4 時 8 分新潟驛着，伊藤內務省新潟土木出張所長，川上土木部長其他諸氏の出迎へを受け直に自動車にて有名な萬代橋の際に至りこゝにて 3 隻のランチに分乘田中豐博士の設計になれる萬代橋の下をくぐれば橋上よりの瞥見とは又其の感を異にしその拱曲線の優美にして構造の雄大なる，基礎の確

固たる實に萬代の名あるを物語つて居る。田中博士はこの橋の徑間割は Horizontal thrust を同一にする爲に兩端徑間を定められたそうだ。艀船には縣の技術官の方々が同乘されてパンフレットにより懇切に說明され日滿連絡の大重要港として一大飛躍を試みつゝある新潟港の全貌をまのあたりにして感興は尋る，同港は從來土砂の沈積甚だしく水深維持に頗る困難を感じ，年々巨額の浚渫費を要したりしも內務省直轄大河津分水工事によりこれ等の冗費が節約され港勢頓に增加したる由，未だ目下盛に浚渫中の2艘の浚渫船を間近に見て中央埠頭物揚場に着し暫し上陸，此處に於て新潟縣土木部長川上國三郎氏の說明を得た，當港の埠頭は縣營と臨港株式會社の經營になり水深 25 尺內外，總長 450 m に及び，繫船能力 49 000 噸に涉る大設備にして正に日本海岸に於ける第一の良港としての跨りを遺憾なく發揮し今後の發展振りが窺はれる。

これより再び乘船し港口へ向ひ防波堤に上る。この防波堤の巨大なブロックの怒濤を總身に引受けて泰然自若たる所に港內の安泰は維持せられるのである。この突端には新潟港の曬とも云ふべく出入船舶の航行を安全ならしむる重大使命を帶びた赤色塗りの燈臺がある。この燈臺の光達距離は實に 12 哩に達すと云ふ。折からの夕陽は水平線上に沒せんとしてあだかも大聖の臨終を思はせる。「來いと云ふたとて行かりようか佐渡へ」の有の儘の姿，噂に聞けども影さへ知らず，その島がかすかに見える，漸くにして再び乘船 5 時 45 分臨港埠頭に着し，こゝに新裝なれる大新潟港の全般を窺知することが出來たのである。視察を終へた新潟港に就ては本會誌に紹介する機會あるを期し筆者は先を急ぐことゝする。

第 2 圖 新潟港燈臺

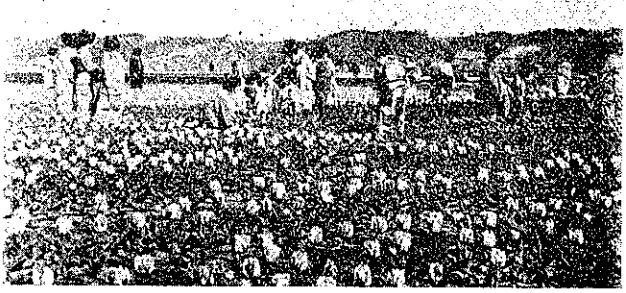


午後 6 時埠頭より自動車上 10 分松林の木の間を過ぎて越後の花床新潟農園に到着した，事務所の附近は新潟の遊園地とも稱すべく遊步道の傍各種の花を植込みアヅマヤの側に噴水の設置，ベンチの用意廣漠たる花園はチユリツプ其他の球根植物で埋められ園內は宛ら天國の境に入つたる如き觀を抱かせる，花の季を過ぎたる今日唯百花繚亂の折を想像するのみであつたのは遺憾である。一巡の後林の傍らに設備されたる休憩所に於て新潟臨港株式會社寄贈のビール，シトロンのサービスを受けつゝ農園技師小山重氏より同農園の沿革から現在は主としてチユリツプ，ヒヤシンス，の如き球根植物の栽培を專らとし，之等のものは世界中にて和蘭を除いては本邦の新潟附近にのみ優良品の栽培可能の事，現在國內の需要を充し，將來アメリカ其他諸邦への大量輸出を目的とし，花園を擴大して花の種類を增し，果物類の植樹等縣下適地に設置し益々同縣下生產物の發展に邁進し，眞に世界的の名產地大新潟農園の建設企畫等に亘り詳細なる說明を得たので次で米元副會長當日一行の爲種々懇切叮嚀なる御配慮を忝ふした關係諸彥に對し厚く感謝の辭を述べられ 6 時半和かな農園の微風に送られつゝ自動車にて新潟縣廳舍に向つた。

豪壯な廳舍內にて縣下產物の陳列を見て黃昏の新潟市の街上ドライヴの後，今回吾々視察團の爲に新潟振興會の厚意により特に準備されたる歡迎宴會場鍋茶屋に着いたのは午後 7 時頃であつた。中庭に面した廣間に於て休憩。入湯される方，圍碁將棋に打興ぜられる方，漫談に爆笑起り一場以つて和氣靄々たる樣は本日のスピード視察の疲

れも何處にかその影さへ見えず暫時の後午後 8 時同亭 2 階の大廣間に於て新潟振興會の歡迎の宴は始められた。當日は縣知事を初めとし縣土木部長並に各高官，市長，並に市各高級員の方々悉く列席され總勢 130 餘を以つて算しさしもの大廣間も場を壓する盛會振りに振興會會長より吾々新潟港視察に對する歡迎の辭と共に新潟港の重要性卽ち日滿交通の最短距離なること，鐵道集中地なること，航空運輸發達し，後方地帶の廣大なること，港內水深を大ならしめたる事等に亘り縷々述べられた。

第 3 圖 新潟農園



之に次で草間土木學會副會長より今回の新潟視察に對し關係諸士の御熱誠なる御配慮に對し厚く謝意を表せられ新潟港の將來に就て希望を述べられた。これより新潟美人のサービス振りに興沸き民謠佐渡オケサの快調子に魅せられ宴は何時果つべくもなかつたが午後 9 時眞田前會長の音頭を以て新潟港の萬歲 3 唱して同港の前途を祝福せば新潟市長より土木學會萬歲を 3 唱して散會，佐渡へ渡られる 19 名の方々は所定の旅館へ，卽夜歸京の方は新潟驛へ赴き 9 時 40 分發後髮を引かるゝの思ひを殘しつゝ越後の都新潟に別れを告げたのである。

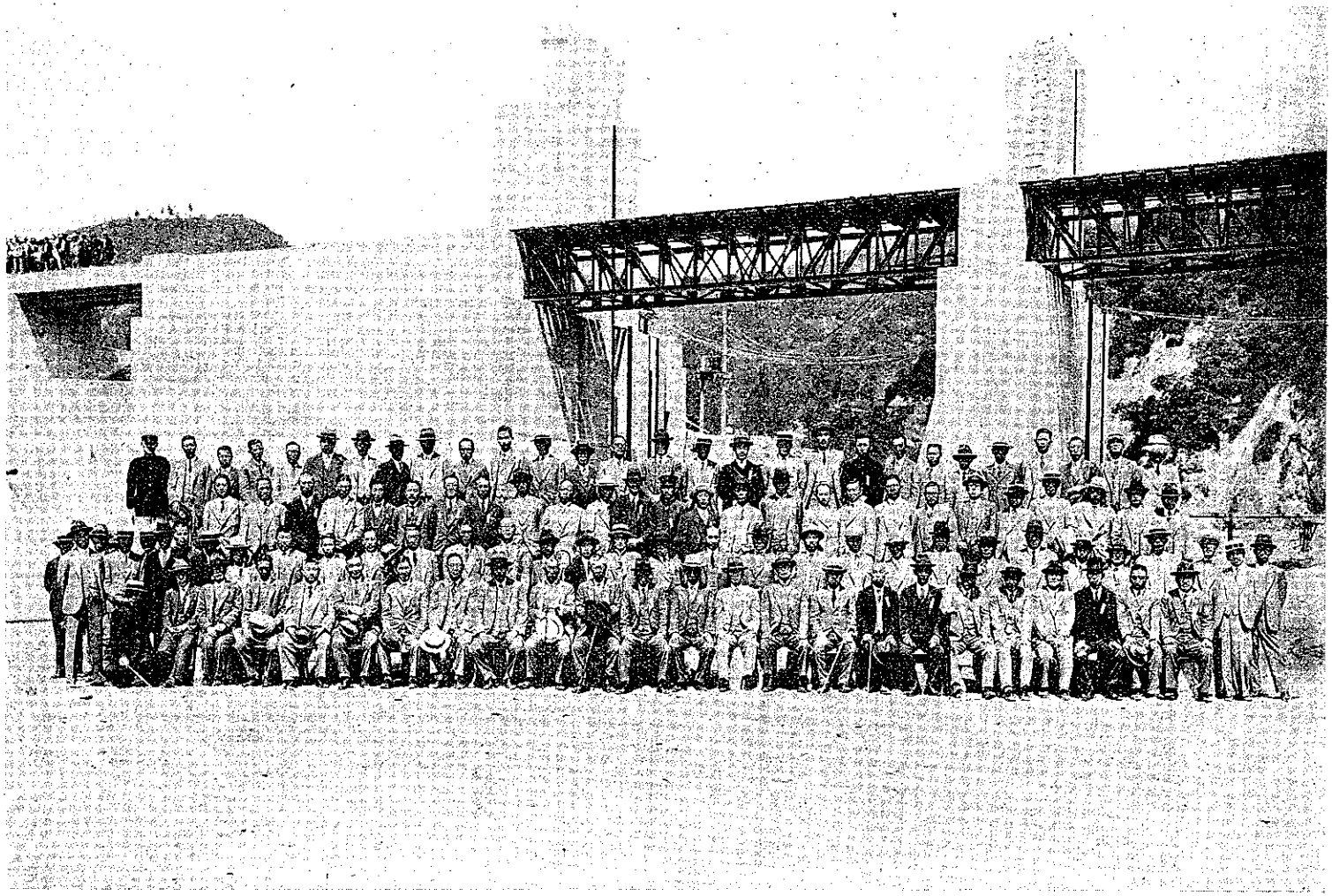
擱筆するに當り今回のめまぐるしい劃期的大視察旅行にも拘らずよくその成果を收め得たのは偏に鐵道省信濃川電氣事務所長以下關係者一同並に新潟縣知事，新潟市長の諸氏及び關係者一同の周到なる御準備と熱誠なる御盡力に外ならないのである。玆に記して深甚の謝意を表する次第である。

參加會員氏名（アイウエオ順）

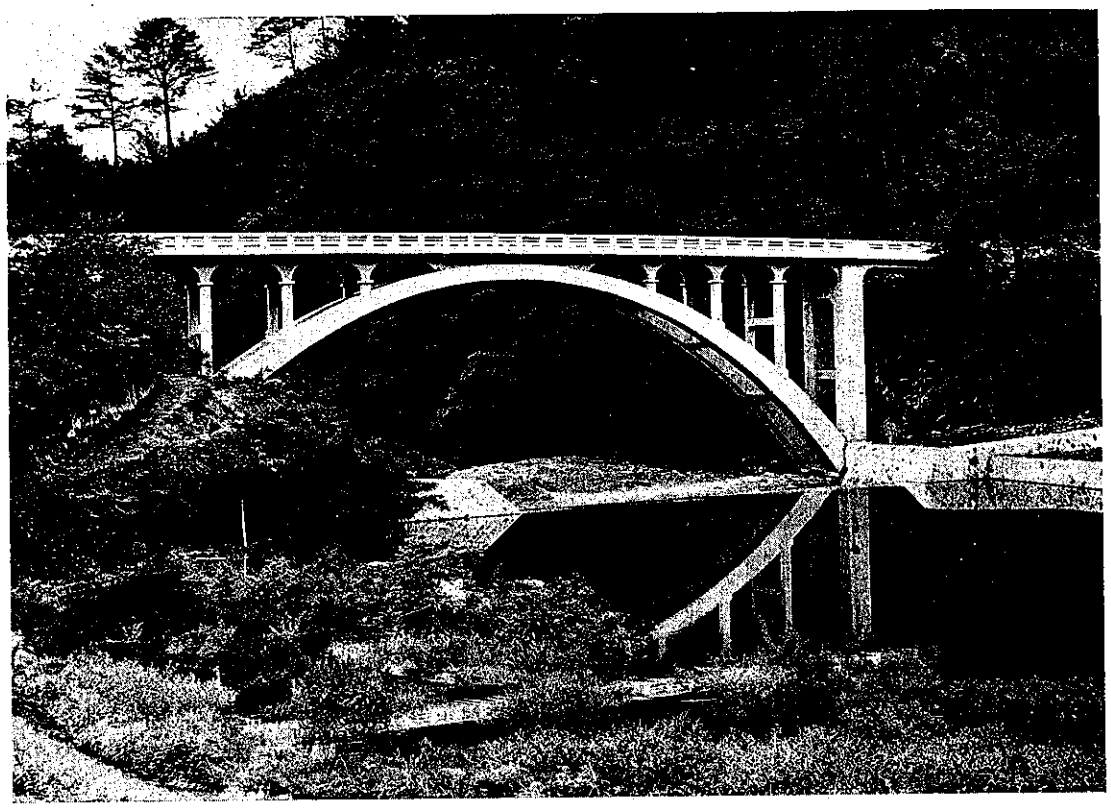
秋山 清君	足立正俊君	淺見詢二君	池上重吉君
池邊稻生君	伊藤孝治君	犬飼壽太郎君	岩井宇一郎君
岩田鶴市君	印南正彥君	市浦 繁君	伊井肆郎君
石川 鼎君	五十嵐三郎君	內海清溫君	江澤甚一君
遠藤藤吉君	岡崎保吉君	岡田倍治君	岡山銀次郎君
小田金治君	大河戶宗治君	大鹽政治郎君	大野健明君
小野基樹君	大津 寬君	片野文吉君	勝目清二君
金澤義之介君	金子 寬君	川口愛太郎君	神谷國繁君
上山善司君	龜田 素君	川越 溫君	河瀨元治郎君
神原信一郎君	鬼海治三郎君	北澤惇夫君	木下武之助君
草間 偉君	櫛引孝一君	久保健次君	高 敏郎君
小暮義雄君	小阪拓次郎君	小宮益三君	佐藤志郎君
佐藤眞次君	櫻山壯次君	佐藤信七君	眞田秀吉君
澤井八洲男君	篠宮彌吉君	下村尙義君	鈴木廣太郎君
菅原正志君	須賀芳政君	關 信雄君	高井信一君
田中 豐君	田原正則君	千葉利智君	遲塚安三君
鶴田勝三君	寺田健三君	戶谷孝之君	中倉專一郎君

長澤達也君　永田民也君　伸田聰治郎君　永矢三郎君
長屋儔君　中矢隆雄君　西松醇厚君　境哲郎君
林將治君　伴宣君　平尾昇君　福田武雄君
藤卷欣四郎君　古川淳三君　藤森謙一君　眞島健三郎君
松山巖君　松井章君　三好新八君　村瀨花之亮君
茂庭忠次郎君　森忠藏君　山倉嘉一郎君　山本新次郎君
吉越康治君　米元晋一君　渡邊義道君

第 4 圖　取水堰堤に於ける土木學會員



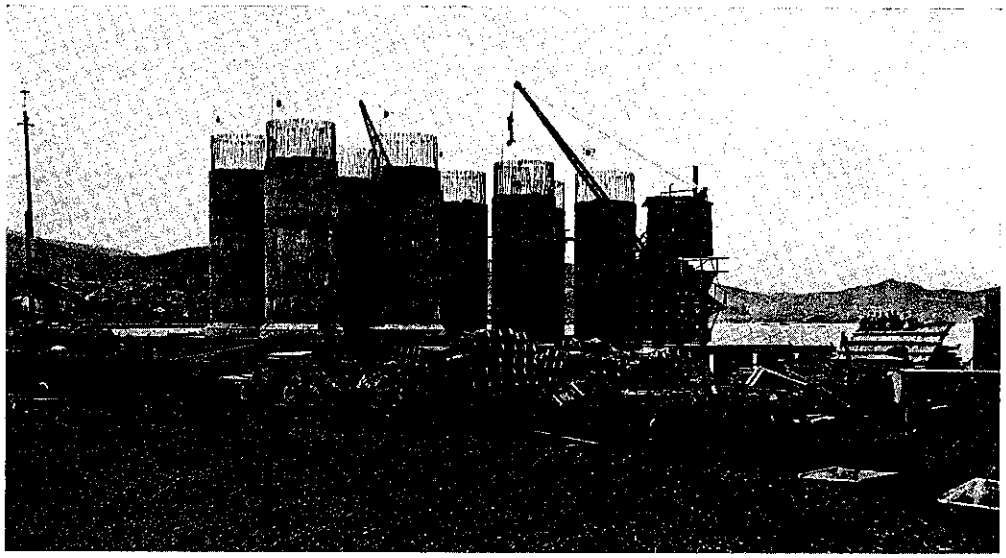
竣功せる伯耆大山登山橋



位　　置	鳥取縣溝口町　府縣道溝口大山線中大江川
橋梁構造	鐵筋コンクリート拱肋橋　1 徑間（徑間長 45.00m，拱矢 12.40m）兩端に鐵筋コンクリート丁桁橋（徑間長 8.90m）2 連を有す，橋長 63.60m，有效幅員 5.50m，橋面にはグラノリシツク・コンクリート鋪裝（厚 4 cm）をなす
總 工 費	32 400 圓
工　　期	昭和 8 年 8 月着工　昭和 9 年 6 月竣功

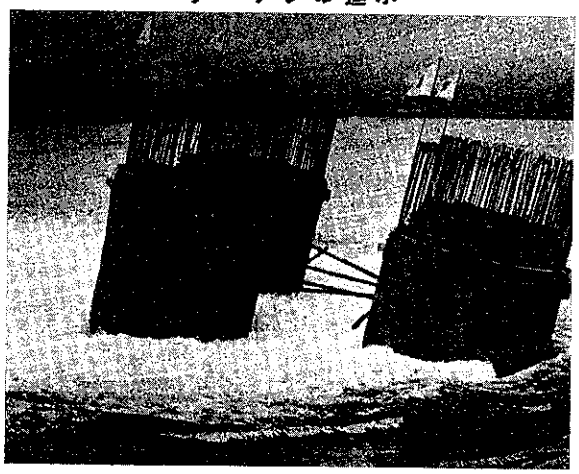
小樽港石炭船積棧橋々脚ケーソン製作工事

進水準備成れるケーソン



8 個のケーソンは 4 個宛 2 基の進水用櫓上にある

ケーソンの進水



小樽港に於ける鐵道省の在來石炭船積木造棧橋は腐朽甚しき爲，これを小樽築港驛前面に移轉改築することゝなり，昭和3年より埋立工事に着手し目下海上棧橋の工事中であるが，この棧橋は長さ 170 m，幅 35.25 m の鐵筋コンクリート造にして橋脚は圓形ケーソンを用ふる設計である。

ケーソンの製作並に進水工事は鐵道省より北海道廳に委託施行中であつてその大いさは

高　さ：9.600 m，　直　徑 {上部外徑 4.000 m / 底版 〃 4.600 m}

壁　厚：上端 0.300 m，下端 0.350 m

重　量：約 104.5 ton

吃　水：約 8.000 m（浮揚の場合）

である。

寄稿に關する注意事項

(1) 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること，原稿用紙は御請求次第送致します。

(2) 御寄稿は止むを得ざる場合の外は成るべく本會の原稿用紙 180 枚（本會誌 30 頁）程度とされたし，若し前記頁數を超過する場合は適宜其の程度に縮少を御願ひすることもあります。

(3) **假名は平假名とし，數字はなるべくアラビヤ文字を用ひられたし。**

(4) 歐字は特に明瞭に認むること。

n と u, u と v, r と v, a と α, r と γ

その他頭字と小字とを判然たらしむる事。

(5) **原稿には必ず冒頭に英文表題及び邦文內容梗概並に著者の職名及び勤務所名を添附されたし。**

(6) 附圖附表に就ては次の各項に御注意ありたし。

(イ) 圖面はその儘縮寫し得る樣にトレーシング・ペーパー，オイル・ペーパー，トレーシング・クロース等とすること。

(ロ) 凡て墨色を用ひインキ類或は彩色を施さゞる事。

(ハ) 方眼紙は青罫のものを用ひ（黃色，赤色の罫は使用せざる事）縱橫線を必要とする部分には豫め墨線にてこれを描き置かれたし。

(ニ) 圖表中の文字，數字は特に大きく肉太に書し縮寫したる後明瞭たらしむる事。

(ホ) 圖表類は製版の都合上可なり汚損するものと豫め御含み下されたし。

(7) 寫眞は特に明瞭なるものを送られたし。

(8) **論說報告，彙報，參考資料及び工事寫眞にして掲載せる分には謝禮を呈す。**

(9) 講演，論說報告の各欄に掲載の分には拔刷 20 部を寄稿者に贈呈するものとし，尙寄稿者の希望に依り實費にて御要求に應ずる事あるべし。

算式その他の記し方大體標準

(1) 本文，文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。a/b と書き $\frac{a}{b}$ を避けること。$(a+b)/(c+d)$ と書き $\frac{a+b}{c+d}$ を避けること。

(2) 獨立したる列に算式を記す場合は次の如く記すこと。$\frac{1}{3}x$ と書き $\frac{x}{3}$ を避けること。$\frac{1}{2}(a+b)$ と書き $\frac{a+b}{2}$ を避けること。$\frac{a}{b+c/d}$ と書き $\frac{a}{b+c\frac{1}{d}}$ を避けること。

(3) 千以上の數字は 53 247 000 の如く 3 つ單位に間隔をあけること。

(4) 名數は次の如く記し括弧の中の樣に書くことを避くること。

83.4 尺（八丈三尺四寸），7 吋（七吋），35 錢（三十五錢），13.56 圓（十三圓五十六錢），1〜4 時間（一乃至四時間），88 326 噸（八萬八千三百二十六噸），1931 年 1 月 1 日（千九百三十一年一月一日）。

新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配布致すべきに付その以前の會誌御希望の場合は1部に付下記金額**振替口座東京一六八二八番**に拂込み用紙通信欄にその旨記入請求せられたし

殘部内譯

卷＼號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)(円)
5	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6	—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	*	*	*	*	*	*	*	*	—	—	*	*	1.00
18	—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
20	*	*	*	*	*	*							1.00

東京市内外交通に關する調査書……3.00
震害調査報告書(1,2,3)……18.00
應用力學聯合大會講演集……1.00
鐵筋コンクリート標準示方書……0.50
同　上　解　說……1.00

(備考：＊は殘部有るもの)

本會會員轉居又は旅行の場合の注意

會員の住所の不明なるときは會誌の配布を始めその他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費支辨には差支なき樣御配慮相成たし

會費納付に付注意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し是非御支拂願度事若しこの集金書へ15日間中3回の取立金支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會**振替口座東京16828番**に（拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事）御拂込相成度尙會費一時納付の御豫定又はその他の都合により支拂なき場合は直に御通知相煩度

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けるときは爲替その他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自1月 至6月 第1期分3月徵收	自7月 至12月 第2期分9月徵收
會員	金12圓	金6圓	金6圓
准員	金9圓	金4圓50錢	金4圓50錢
學生員	金6圓	金3圓	金3圓

新に入會したるものは月割算として入會の翌月集金を發す

會費未納に付注意

會費は年額を第1期第2期に分割し毎年3月9月に振替貯金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して故なく支拂を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滯納者として遺憾ながら定款第2章第14條第1項に依り遂に會誌の配布を停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手數一通ならず故に今後右樣のことなき樣特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

會誌未着の場合の注意

・會誌は毎月25日（印刷又は原稿等の都合に依り遲延する事あり）に發行し漏なく配布すべきに付未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ケ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くて殘部皆無となり遺憾ながら配布は不可能のことあるべきに付御留意相成たし

雜誌閲覽に就ての會告

別記の寄贈並に交換雜誌は本會事務所に備付置候間御希望の向は下記時間内御隨意に御閲覽相成度候。

閲　覽　時　間

日曜日及祭日休，土曜日自午前9時至午後4時，其他自午前9時至午後8時。

但し役員會，委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被下度候。

廣　告　料

(東京市京橋區小田原町 2 丁目 21 番地
電話京橋 672 番　振替東京 3069 番　東京第一通信社取扱)

普通廣告	1回1頁	40圓	1回半頁	25圓
指定廣告	裏表紙3面對向及廣告初頁	1回1頁	60圓	
	裏表紙3面	1回1頁	150圓	
	色アート	1回1頁	75圓	

○指定廣告は凡て1箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす

○會員自身の廣告に對しては總て上記料金の1割引とす

○同一廣告の連續掲載申込に對しては半箇年分5分引，1箇年分1割引とす

○廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

訂　正　表

係數曲線に據る調整池諸問題の解法

第 20 卷 第 7 號 所載

頁	行	誤	正
637	上より7	$\alpha_i=\frac{1}{x_0-x_1}\int_0^{x_0}\cdots\cdots$	$\alpha_i=\frac{-2}{x_0-x_1}\int_0^{x_0}\cdots\cdots$
646	〃 12	$ox'_il=\frac{3}{4}\alpha_i'^2\left(1-\frac{1}{2}\alpha_i^2\right)$	$oxil=\frac{3}{4}\alpha_i^2\left(1-\frac{1}{2}\alpha_i^2\right)$
647	第1表(其の3)表字空欄		Δ を入れる
652	(26′) 式分母	γ^2	r^2
〃	上より7	γ	r
663	(41) 式分子	$(\quad\quad)+(A_i'-A'_{1'})$	$(\quad\quad)+(A'_i-A'_{1'})$
664	上より2	$A_i'=\cdots\cdots$	$A'_i=\cdots\cdots$
〃	〃	$A_1'=\frac{3}{4}\alpha_1^2\left(\gamma_0-\frac{1}{2}\alpha_1^2\right)$	$A'_{1'}=\frac{3}{4}\alpha_1'^2\left(\gamma_0-\frac{1}{2}\alpha_1'^2\right)$
〃	(43) 式分子	$2f(A_0+A_i'-A_i')$	$2f(A_0+A'_i-A_{i'})$
665	(45) 式	$\gamma_m=\frac{(A_0-A'_i)\gamma_C+(\quad\quad)\gamma_0}{(\quad\quad)+(A_i'-A'_{1'})}$	$\gamma_m=\frac{(A_0-A_{i'})\gamma_C+(\quad\quad)\gamma_0}{(\quad\quad)+(A'_i-A'_{1'})}$
666	(51) 式	$\{(\quad\quad)-\alpha_p(x_0-x_{p'})\}\cdots\cdots$	$\{(\quad\quad)-\alpha_p(x_0-x'_p)\}\cdots\cdots$
〃	上より14	$\alpha_p'=-2\cos\left(\frac{1}{3}\cos^{-1}x_{p'}\right)$	$\alpha_p'=-2\cos\left(\frac{1}{3}\cos^{-1}x'_p\right)$
667	〃 17	$x_i'=\cdots\cdots$	$x'_i=\cdots\cdots$
670	〃 9	$\alpha_ix_i'-\alpha_ix_1-A'_i+A'_{1'}=(\cdots\cdots-x_{i'})^2\cdots\cdots$	$\alpha_ix'_i-\alpha_ix_1-A'_i+A'_{1'}=(\cdots\cdots-x'_i)^2\cdots\cdots$
〃	(55) 式左末項	$+\left\{\frac{\cdots\cdots}{\cdots\cdots}x_i'^2-\alpha_ix'_i+A_i'-A'_{1'}\right\}=0$	$+\left\{\frac{\cdots\cdots}{\cdots\cdots}x'_i{}^2-\alpha_ix'_i+A'_i-A'_{1'}\right\}=0$
671	(57) 式末項	$\cdots\cdots+\left\{A_i'-\alpha_ix_i'+x_i'^2\frac{\cdots\cdots}{\cdots\cdots}\right\}=0$	$\cdots\cdots+\left\{A'_i-\alpha_ix'_i+x'_i{}^2\frac{\cdots\cdots}{\cdots\cdots}\right\}=0$
〃	(58) 式右邊	$=(x_0-x_i')^2\frac{\cdots\cdots}{\cdots\cdots}$	$=(x_0-x'_i)^2\frac{\cdots\cdots}{\cdots\cdots}$
〃	上より11	$Q_0'=\frac{Q_i'}{\beta_i}\beta_0=(x_0-x_i')\cdots\cdots$	$Q_0'=\frac{Q_i'}{\beta_i}\beta_0=(x_0-x'_i)\cdots\cdots$
〃	(59) 式	$\cdots\cdots=\frac{x_0-x_i'}{\cdots\cdots}\cdots\cdots$	$\cdots\cdots=\frac{x_0-x'_i}{\cdots\cdots}\cdots\cdots$
〃	(60) 式	$\cdots\cdots\left\{1+\frac{x_0-x_i'}{\cdots\cdots}\frac{1}{\alpha}\right\}=\cdots\cdots$	$\cdots\cdots\left\{1+\frac{x_0-x'_i}{\cdots\cdots}\frac{1}{\alpha_i}\right\}=\cdots\cdots$
672	(64) 式末項	$\cdots\cdots+x_p'^2\frac{(\cdots\cdots)}{3(\cdots\cdots)}=0$	$\cdots\cdots+x'_p{}^2\frac{(\cdots\cdots)}{3(\cdots\cdots)}=0$
673	上より5	$\cdots\cdots\{\cdots\cdots\alpha(x_0-x_{p'})\}$	$\cdots\cdots\{\cdots\cdots\alpha(x_0-x'_p)\}$
678	上より8	$y_i'=\cdots\cdots$	$y'_i=\cdots\cdots$
681	(71′) 式	$\frac{(\cdots\cdots)-\alpha_i(x_H-x_i')}{(\cdots\cdots)-\alpha_i(x_0-x_i')}=\frac{V_1}{V_0}$	$\frac{(\cdots\cdots)-\alpha_i(x_H-x'_i)}{(\cdots\cdots)-\alpha_i(x_0-x'_i)}=\frac{V_1}{V_0}$
682	上より4	$A\gamma_{I_1}=\cdots\cdots$	$A\gamma_{II}1=\cdots\cdots$
683	〃 5	$=x_i'+x_j$	$=x'_i+x_j$

DOBOKU-GAKKWAI-SHI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XX, NO. 7, JULY, 1934.

CONTENTS.

Page

Proceedings of the Society. 97

Address.

On the Construction of the Shinano-Gawa Hydro-Electric Power Plant.
By Shū Nagaya, C.E., Member. 623

Papers.

The Solution of Pondage Problems by Coefficient Curve.
By Tatsuji Matsuno, C.E., Member. 631

Small River Caisson Work.
By Yoshihide Suzuki, Member. 703

Some Problems on the Non-uniform Steady Flow.
By Masashi Homma, C.E., Assoc. Member. 715

Construction Features of a Bridge in North Manchuria.
By Humiyoshi Manabe, Assoc. Member. 731

Discussions. 749

Notes on Matters of Interest. 751

Patent News. 779

Abstracts of Selected Articles. 781

OFFICE

No. 6, 1-CHOME, MARUNOUCHI, KOJIMACHI-KU, TOKYO.